

世界中から集めたクラシックカーの博物館 「ツカハラミュージアム」でクルマの歴史を体感

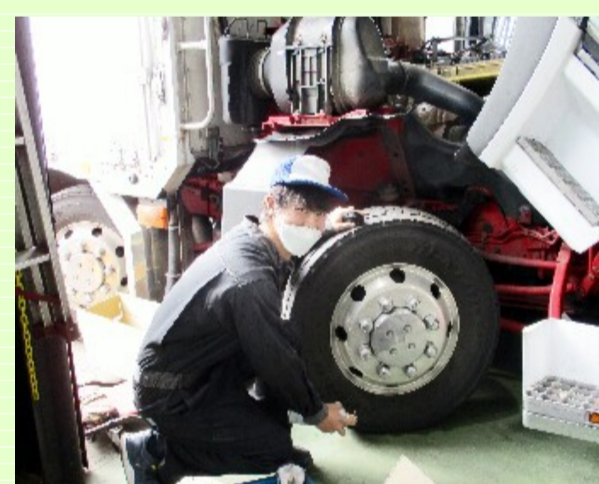
自動車システム工学科では、八戸市北インター工業団地にあるテクノクラフト・シー・アンド・ヴィ(株)ツカハラミュージアムの見学を行いました。このミュージアムは、世界中から集めたクラシックカーの博物館となっており、トヨタカローラ(株)を中核とした塚原企画グループが運営をしています。創業者が自動車の部品販売・電気修理屋としてスタートしたのが八戸で、現在もクラシックカーのネジ1本、パーツなどにこだわり、手作りで修復をしていました。



名車「トヨタ2000GT」や実際にドライバーズシートに搭乗ができる「フォーミュラカー」、「GTカー」も展示されていました。クラシックカーファンだけでなく、お年寄りから子どもまで楽しめる施設となっており、学生のみなさんは担当者の説明を受けながら、納車前整備や钣金・塗装工場と歴史的に貴重な数々の自動車を見学しました。とてもレアなクラシックカーを見て学生は大満足な様子でした。

実際の自動車整備の現状を体験 自動車システム工学科の1年生がインターンシップを実施

自動車システム工学科では、今年度から自分に合っている就職先が選定できるよう、1週間ごとに2社のインターンシップを行いました。学生は実習先の各社で職場の雰囲気や整備士のプロによる仕事の速さ、正確性などを実際に自分の目で確認し体験できる絶好の機会となり、今後の就職活動を円滑に進め、自分が希望する就職先を選定できたようです。



最新技術講習シリーズ (株)日産サテオ弘前様から講師を迎え、新しいクルマの技術を学びました

各ディーラーのみなさまのご協力で、学生に対して新しいクルマの最新技術について講習をしていただいています。今回は株式会社日産サテオ弘前様から講師を迎え講習会を開催しました。講習ではエクストレイルを使ってのエーミング作業やGT-Rについての内容でした。GT-Rは構内の駐車場で体験試乗をさせていただき、学生は憧れのスーパーマシンを前に興奮が止まらない貴重な機会となりました。



2級建築大工技能士受検対策 全員が技能検定の合格を目指して受検対策を始めました

建築システム工学科1年では、来年の2月に実施される2級建築大工技能検定実技試験の現寸図の作成をしました。今年度は実技課題が10数年ぶりに変更となり、試験時間も5時間30分から3時間30分と大幅に短縮となりました。そのため、初めて受検する1年生には早めの受検対策として例年よりも前倒しをして現寸図の作成をしています。実習で描いている現寸図というのは、縮尺しない実物と同じ寸法で描いた図面のことです。



過去に受検した経験から、学生のみなさんへのアドバイスは、ひたすら何枚も描くことが合格の近道となります。まだ始めたばかりなので、1枚の現寸図を描くのに時間を要していますが、試験当日ではこの現寸図は30分以内に描き上げなければなりません。現寸図作成、木ごしらえ、墨付け、加工・組立てと覚える作業はたくさんありますが、全員が合格できるよう作業ごとのコツを覚えていただきながら、受検対策をしていきたいと思ひます。

建設業「働いてよかった！」先輩講演会 当科修了生の太田怜那さんに後輩に対してアドバイスをいただきました

建築システム工学科の学生を対象に「建設業『働いてよかった！』先輩講演会」を開催しました。この講演会は、青森県県土整備部監理課が若年者の建設業への入職促進と建設業でも女性が活躍できる業界であることを認知・理解してもらうことを目的に実施しています。今回の講演会の講師は、当校の建築システム科を修了し、青森市にある丸喜株式会社齋藤組で大工として活躍している太田怜那さんに「仕事として大工を目指したきっかけ」や「これから大工として働く上でのアドバイス」、「建設業のリアル」などについて話していただきました。



観光資源の修復で持続可能な地域づくりに協力 弘前市城北公園交通広場に設置してある旧弘前駅舎の修復を行いました

弘前市城北公園交通広場に設置してある旧弘前駅舎模型の修復が終了したので現地で引渡式が行われ、弘前交通安全教育協会の小山会長から当校の外崎校長へ感謝状が贈呈されました。その後、駅舎模型前に設置されていた駅名の看板が破損して撤去されていたことから、新たに看板を作成し、建築システム工学科2年の伊藤美蘭さんから、弘前交通安全協会の山口裕通事務局長へ駅舎看板を手渡しました。また、学生を代表して同科の工藤真南斗さんが、「今回の地域活動を通して改めてものづくりの楽しさや日々の訓練の大切さを感じることができました。」と活動の感想を発表しました。



今回の実習では、地域の観光資源の修復を担当させていただき、改めて「持続可能な地域づくり」に協力することができたことを実感しました。今後も継続的に地域と学校が連携・協働しながらつながりを深め、当校の強みである「ものづくり」を通して弘前のまちをもっと元気にしていきたいと感じました。

モノづくりは人づくりから 地域に根差した職業能力開発校をめざして